

## 第5回 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会 議事要旨

1. 日時 : 平成 25 年 3 月 26 日 (火) 9:30 ~ 11:30
2. 場所 : レセプションハウス名古屋通信会館(6階 葵の間)
3. 出席者 : 松尾部会長、辻本部会長代理、石田委員、関口委員、藤田委員
4. 議事要旨

### 【総括】

平成 24 年度のフラッシュ操作に伴う調査結果の整理および数値解析シミュレーション結果について、事務局からの説明に対して審議された。

平成 25 年度の長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関し、事務局からフラッシュ操作の新たな操作パターンが提案されるとともに調査計画について説明があり、審議の結果、調査計画が了解された。

#### 1) 平成 24 年度の調査結果の整理について

- ・ DO 対策船稼働日数については、河川流況やフラッシュ操作実施状況と合わせての整理を行っていただきたい。
- ・ 伊勢大橋地点の底層 DO 改善について、流況やフラッシュ放流による中底層水塊の放流状況との関係をさらに把握できるように、分析等行ってほしい。
- ・ クロロフィル a をグラフ化してわかりやすくなったが、水質自動監視装置やシミュレーション等で用いられているクロロフィル a の値がどのような空間的な代表性を持つのか考えていく必要がある。
- ・ 通常のオーバーフロー放流とアンダーフローフラッシュ放流の比率はどうか。

#### 2) 数値解析モデルについて

- ・ 計算値と観測値の差は、モデルのメッシュの大きさ（空間的分解能）による部分もあるが、流れの変化に対応する水質変化はある程度表現できている。
- ・ 長良川大橋地点の DO 値の実測低下速度がきわめて大きい、モデルでは表現できない事象が生じている可能性がある。
- ・ 生態系モデルのパラメータと流動モデルのパラメータの設定方法や相互の影響について検討してもらいたい。
- ・ 8 月 11 日から 8 月 13 日の水温や DO の複雑な変化の要因等を調べてほしい。

#### 3) 平成 25 年度の更なる弾力的運用、調査計画について

- ・ これまで、オーバーフロー、アンダーフローの違いなど鉛直 2 次元で検討されてきたが、今後ゲートの開け方や滲筋を考慮した平面的な整理や分析も考えてほしい。
- ・ 河川横断面形状の変化（浅い部分、深い部分）も考慮した流動状況の調査を行う必要がある。
- ・ 更なる弾力的な運用の到達点、DO 値の改善だけでなく、プロセスについても考慮

した環境改善かどうかを検討してほしい。

- DO 値については、水質自動監視装置のデータと深掘箇所データの関係を調べることなど、空間的な分析も行ってほしい。
- フラッシュ操作は対症療法的部分もあるが、実施を継続することによって、躍層を解消している可能性もある。
- 数値解析で得られたデータを活用し、現象の理解を深めた上で、今後の調査計画に反映してほしい。

－以上－